

●協働学習

■児童生徒発表型

実践タイトル 相手に伝えるための情報を整理する

本時のねらい

「僕の犬」を地域の人々に探してもらうために、外見や癖など提供する情報について考え、選択していく活動を通して、適切な情報を絞り込むことができる。「必要な情報」と「必要でない情報」を、生徒に電子黒板を操作させて分類させる。意見が分かれるものについては、電子黒板の画面にグレーゾーンをつくり、話し合わせる。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板

「必要な情報」と「必要でない情報」について、複数の生徒に電子黒板を操作させ、表に分類させた。意見が分かれたものについては、教師が電子黒板を操作して画面の中央にグレーゾーンをつくらせて位置つけて話し合わせた。

PC教材

「必要な情報」と「必要でない情報」を分類するための表と、生徒が考えた情報を入力し操作させるためのオブジェクト枠を準備した。それらを活用することで、仲間の考えを視覚的にとらえることで、話し合い活動を充実させた。

参考にしてほしいポイント

- ・電子黒板で提示した教材は、文書作成ソフトウェアで作成したものである。特別なソフトや教材を利用しなくても、日常の業務で使っているソフトを活用し、工夫すれば有効な教材を作成できる。
- ・電子黒板を活用することで、話し合い（コミュニケーション）活動を充実させることができる。

学習の流れ(分)		主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
本時の展開	導入	0 ○前時に考えた「僕の犬」の情報を想起する。 ○本時の課題を知る。「地域の人々に僕の犬を探してもらうためにはどんな情報を選べばよいか」 10 ・各自、学習プリントに「必要な情報」「必要でない情報」を分類する。	・電子黒板 ・PC教材
	展開	○電子黒板を使って「必要な情報」「必要でない情報」の分類を発表する。仲間の発表を聞く。 ○意見が分かれたもの、分類に迷ったものについて話し合い、「必要な情報」を絞り込む。 40	・電子黒板（写真1～3） ・PC教材（生徒が自分の考えを発表するため、教師の操作により表にグレーゾーンを追加する）
	まとめ	○地域の人々に分かりやすく伝えるための、効果的な情報の観点についてまとめる。 50	

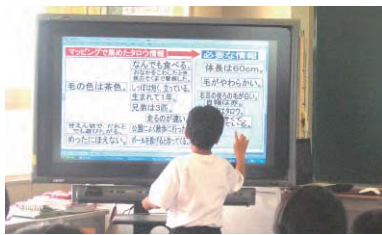


写真1：電子黒板を操作して情報を分類する



写真2：電子黒板の画面を見て話し合う

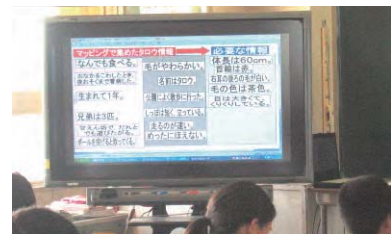


写真3：画面にグレーゾーンを位置付ける

児童生徒の反応

相手や目的に応じて、情報を取捨選択するための観点を明らかにするために、電子黒板を用いたことは効果的であった。発表者が次々と電子黒板のオブジェクト枠内を操作する中で、「それはいる」「それはいらないうらう」とつぶやきながら、思考過程を共有することができた。また、グレーゾーンを設けたことで、取捨選択の観点は焦点化され、根拠を明らかにし、考えをまとめることができた。

活用効果

評価の観点	書くこと 相手や目的に応じて情報を選び、整理することができる。
具体的変容	導入では、「僕の犬」について集めた複数の情報について、相手や目的が明らかでも、取捨選択の根拠が明らかではなかった。展開の中で、仲間と思考過程を共有しながら、取捨選択の操作を繰り返し行ったことで、仲間の意見との共通点や相違点が明らかになり、取捨選択の観点を確かめることができた。

実践の手応え

電子黒板上のオブジェクト枠は、「ピンクは必要な情報」「青は不必要な情報」というように、配色と思考を結び付けながら学習していくことに大いに有効であった。枠自体を動かすことや生徒の操作を、エラーレスかつスピーディーに行えたことは、生徒同士が思考過程を共有することにつながり、課題解決に迫る学び合いがより焦点化されたものになったと思われる。